

(株)中京メディカル

愛知県名古屋市

——弁理士知財キャラバンを受けてからの知財活動の変化——

1 中京メディカルの事業について

聞き手 まずは事業内容等について、簡単にご紹介いただければと思います。

中京メディカル 事業内容については前回から特に変わっていません。主に眼科医療のサポート全般と医療機器関係の研究開発を行っています。特許関係は、医療機器関係の研究開発から出てくるものです。ただ、以前のヒアリングの後、事業規模が縮小しました。

聞き手 具体的には、何かの事業をなくしたのでしょうか。それとも事業を全体的に小さくしたのですか。

中京メディカル 規模自体が小さくなった形です。弊社は中京グループという眼科医師の集まりをサポートする会社なのですが、その中京グループの医師が前回のヒアリングから減少した結果、弊社の事業規模自体が縮小しました。

聞き手 分かりました。以前のヒアリングでは、医療の2025年問題といいますか、65歳以上の方の割合が増えて人手不足になるのを見据えて、海外に活躍の場を広げる事業展開等を考えているとお伺いしました。その海外展開等は、今はどうでしょうか。

中京メディカル これは、当時と変わらない形です。コロナがあったので、海外での医療ができなかつた時期が若干ありましたが、今は再開しています。

2 中京メディカルの知的財産権について

聞き手 御社の知的財産権についてですが、前回のインタビューの時には、20件程度の特許権を保持していて、それを知財キャラバンによりこちらの委員が整理したということを伺っています。それ以降は、商標なども含めて、知的財産権を取得したなどはありますか。

中京メディカル 規模は縮小しましたけれども、元々特許を出したいというドクターは、離れずに残っているので、そこは常に変わらず出し続けています。当時は二十数件でしたが、現在では30件を超して、商標も出しています。

聞き手 先ほど、特許庁のデータベースで調べたところ、特許出願は40件ほどになっていました。

中京メディカル 40件ありましたか。きちんと把握をしていないので、お恥ずかしい。

【事業内容】

- ・眼科医療のサポート全般
- 医療器具、医療機器の研究開発

<https://chukyomedical.co.jp/>

聞き手 見てみると、大学との共同出願等もやられているようです。単独ではなくて、他社や大学などと共同でやるようなことも、増えてはきているのでしょうか。

中京メディカル 元々、大学と共同研究はしていたので、それで増えたかどうかは特には感じていません。大学以外にも、当然メーカーさんとも共同研究をやっています。その中で特許を出せるもの、出せないもの、出したもの、大学とはキャラバン後に何件か出願していますが、それは10年以上続いている共同研究が、ようやく特許を出せるタイミングになってきたということでしょうか。

聞き手 分かりました。前回は、特許と商標は出されていて、意匠はまだ出していませんでした。意匠よりは特許出願のほうが優先すべきで、特許出願をしている形でした。御社の事業形態上、やはり意匠よりは特許出願のほうが、合っているという理解なのでしょうか。

中京メディカル そうでもありません。どちらかというと、意匠はあまり念頭にありませんでした。確かに、意匠でも取れるものがあるのではと思います。今まででは、ドクターのアイデアで、「このようなものがあるといいですね」ということで、付加価値の付いた医療機器を特許出願しているのですけれども、確かに、その中には、持ちやすいデザインや、目の中に入れる器械などもあります。

聞き手 眼内の、コンタクトレンズのようなものでしょうか。

中京メディカル そうですね。眼内レンズといいますが、そのようなところで、意匠として出すことができるアイデアもあるのでしょうかけれども、どちらかというと、知財イコール特許というイメージで、次々に特許と、考えずに応しています(笑)。

3 知財キャラバンを受けてからの知財活動の変化について

聞き手 平成29年に、知財キャラバンで3回コンサルティングを受けていただいたと思います。その後、そのコンサルティングを受けて、御社の知財活動などに何か影響があったかどうか、または実践されていることが出てきたのか、お伺いさせていただきたいです。

中京メディカル キャラバンの中で、弊社の持っている特許を一覧にしていただいたことがあります。それまで

特許の管理という面では後手に回っていて、特に取得した特許権の把握自体がおろそかになっていたのですが、一覧表を作成いただいてそれぞれの特許間の役割というか関係性のようなものは、少しクリアになった部分はありました。これをきっかけに取得した特許の整理といいますか、単に年金を払うだけの管理や把握ではなく、会社が現に維持している特許を速やかに経営に活用できる体制を社内に整えることができました。

聞き手 御社の特許を知財キャラバンでまとめてもらつた以外に、3回目には、御社の所属する若手の眼科医さんを中心に、特許セミナーを開催したと思います。例えば、その特許セミナー開催後に、眼科医さんなどの知財の意識が変わり、出願の相談が増えたなどの変化はありましたか。

中京メディカル まさにおっしゃるとおりで、先ほど申し上げたように、医師が30人ほどいましたが、その中の何名かにキャラバンのセミナーを受けていただき、アイデアを出してもらいました。実際に特許になったアイデアもいくつかあります。

聞き手 前回の知財キャラバンを受けた後に、代表の意識が変わったなどはありますか。

中京メディカル 代表に限らないのですが、意識が一番変わったのは、おそらく、特許とはどのようなものかを、理解できしたことだと思います。というのも、今までは、アイデアを出し、例えば、眼科の医療、手術で使うAとBとCを満たした器具を特許に出そうという発想でした。A、B、Cの条件がある特許と、Aだけの特許では、どちらがいいか、知財キャラバンで特許の説明を受ける前までは、A、B、Cと思っていたのです。

聞き手 権利範囲が狭いほうということですね。

中京メディカル その意識が大きく変わりました。そのため、アイデアを出した時に、今までは3つが固まっていたのですけれども、その中の一番ポイントとなる本質的なアイデアはどれか、整理ができるようになったのは大きいですね。

聞き手 それが、前回の知財キャラバンで知財セミナー、特許のセミナーなどを受けていただき、大きく変わったところですね。発明をうまく捉えられるようになったということですね。

中京メディカル 今では、特許出願の最大のポイントだと思っています。

4 知財キャラバンに期待すること

聞き手 再度知財キャラバンを受けてみたい、もし受けとしたら、どのような内容なら受けてもいいと思われますか。

中京メディカル 現状、受けるとなると、最近は特に海外とのやりとりが出てきているので、海外で特許を取る

というよりも、海外で特許を取った後にメーカーとどのように交渉していこうかという部分が大きいでしょうか。

聞き手 海外での特許活用という意味ですね。

中京メディカル はい。

聞き手 ちなみに、海外でも特許出願は何件かされていますか。

中京メディカル 数えたことはありませんが、何件かしています。たいていはヨーロッパとアメリカに出願しています。

聞き手 実際に特許出願されているアメリカ、ヨーロッパでの、例えば、特許権取得後の活用方法などを知財キャラバンでできれば、受けてもいいということでしょうか。

中京メディカル そうですね。知財キャラバンはいろいろな形態があるのかもしれません、前回は弁理士さんに来ていただきお話をいただきました。セミナーと違い個別の対応をいただきましたので、とても貴重な機会を無料で作っていただけたことは感謝しています。ただ、今は前回とは違う形態でのキャラバンを望んでいます。例えば、大きな企業の知財部を見たことがないのと、可能か分かりませんが、一度そのような現場をキャラバンで見学会などを行って1週間ほどの様子を見てみるとなどがあると、面白いと思います。

それこそ、知財部の新人教育のようなところをどうされているのかなど、その人がどのように、5年、10年で成長してきたか、座談会のように聞いているだけでも面白いという気はします。

聞き手 また、前回の知財キャラバンは3回でしたが、回数は3回程度がちょうどよかったか、それとも、例えば内容によってはもう少し少なくてもいいのか、多いほうがよかったか、感想などはありますか。

中京メディカル 前回の3回はちょうどよかったと思います。可能であれば、それこそ何回もというのはありますですが、当時もそうでしたけれども、ドクターの予定調整が一番大変です。日中は合わないので、朝か夜になってしまいます。

聞き手 前回も、確か夜の7時頃から始まっていましたね。

中京メディカル そんなわがままにもお付き合いいただけ、とても使い勝手の良いキャラバンでした(笑)。

聞き手 例えば、前回は対面でしたが、一部をWeb会議、システム上にすると利便性が上がるでしょうか。

中京メディカル 確かに便利にはなりますが、逆に聞かなくなるかもしれません(笑)。

聞き手 それは確かにそうかもしれません。分かりました。ありがとうございました。

登録商標第6177417号

